

答え カードの裏に答えの番号が書かれているよ！並び替えが終わったら、カードを裏返して答え合わせをしてみよう！

⑤ ろうを耐火石膏に埋めて窯で焼く。ろうが溶けて無くなり、ろうの形に空洞ができる。

⑧ 湯道を切り落とし、磨くなどして形を整える。色をつけたり磨いたりして、完成！

⑦ 流した金属が冷めたら耐火石膏をノミ等で取り除く。

① 石膏原型を基に、シリコンと石膏で型を作る。

④ ブロンズを流し入れるための道(湯道)をつける。湯道もろうでできている。

③ 型からろうを外す。石膏の形がろうになって現れる。

⑥ 溶かしたブロンズを流し込む。

② 型の内側に柔らかい“ろう”を張り込む。

③ 「高田博厚レシピ」はなぜ生まれた？

? 高田はどうして、同じ形や似た形の作品をいくつも生み出していたんだろう？

②の作品は、Aに手を加えて別の作品に作り変えていたね...



たくさん作って色々な所に置きたかったのかな？

同じ形でも、1つ1つ印象がちがうね

?の答えを考えて書いてみよう。

発見1 「型」を使うことで、同じ形を複製したり、新しい作品を生み出したりすることができる！

発見2 作り方を知ることで、作品をいろいろな視点から見ることができる！

福井県にゆかりのある彫刻家
高田博厚の★
えらべる
鑑賞シート

これにきーめたノ

「高田博厚レシピ」を
解き明かせ！



名前 _____ 日にち _____ 月 _____ 日()



「空」ブロンズ・1978年 (福井市美術館所蔵)



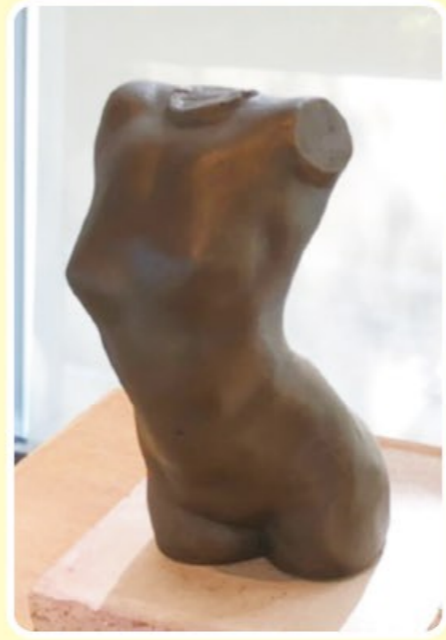
「空」ブロンズ・1978年 (東松山市所蔵)

あれ？同じ作品が2つ？

この2つの作品は、彫刻家高田博厚(1900-1987)によって作られました。左は福井県の福井市美術館に、右は埼玉県の東松山市高坂駅前に展示されています。

この2つ、実は同じ形なんです。なぜ彫刻にはこういった同じ形の作品があるのだろう。高田の作品の作り方、「高田博厚レシピ」を探ってみよう！

高田の作品は主に「ブロンズ」という金属で作られています。



「ブロンズ」ってなに？
金属の種類で、銅と錫を混ぜたもの。手で自由に形を変えられない。1200度で熱すれば溶けて液体になる。青銅とも呼ぶ。



実は身近な「ブロンズ」

10円玉 銅メダル

私たちの生活の中の色んな所で「ブロンズ」が使われているよ！



こんな硬い金属の作品、どうやって作るんだろう？

金属の塊を削るんじゃないかな？

作るのがすごく大変そう...

同じ形の作品をどうやって作ったの？

① 彫刻ってどうやって作っているの？ ブロンズ作品を作るには、「①粘土で形を作る」、「②粘土から石膏へ」、「③石膏からブロンズへ」の3つの段階があるよ。「石膏からブロンズまでの道カード」を並べ替えて考えてみよう！

1 粘土で形を作る

作品のスタートは粘土から。柔らかい粘土で形を作り出していきます。高田は作品を作る上でこの行程を非常に大切にしていました。

2 粘土から石膏へ

作品を粘土のまま長い年月残すことはできません。そのため、「石膏」というしばらく保存することのできる材料に置き換えます。



3 石膏からブロンズへ

作品完成まであと少し！

石膏原型を使ってよいよブロンズへ置き換えます。右ページの8枚の「ブロンズまでの道カード」を切り取って、イラストを見ながら作り方の順に並び替えてみよう！



ならべかえ

ブロンズまでの道カード

切り取って使ってね

スタート 石膏原型

ゴール ブロンズ

② 下の3つの作品について考えてみよう！ これは高田の「うずくまる女」という作品です。この3つの作品、どこか似ているような…？「高田博厚レシピ」の手がかりを探してみよう！



A:「うずくまる女」ブロンズ・1975年 B:「うずくまる女のトルソ」ブロンズ・1975年 C:「うずくまる女のトルソ」ブロンズ・1975年

3つの作品のそれぞれの印象はどんな風に違うだろう？それぞれの特徴を書いてみよう

Aの特徴	Bの特徴	Cの特徴
------	------	------

同じ「型」を使って、A→B→Cの順番で作られているよ。少しずつ似ているけど、どこかが違う…。



BとCの作品タイトルにつけられている

トルソって何？

トルソは、イタリア語で「胴体」という意味です。美術の世界では、手足・頭のない胴体の像を「トルソ」と呼びます。手足・頭が欠けることで、筋肉の緊張感やゆるみなど、見えにくかった身体の動きがより目立って見えるようになります。